シナリオサンプル

#
庭に黒い薔薇が咲き乱れる、不吉なような美しいような、そんな屋敷があった。

#
その屋敷の名は誰が呼んだか『黒薔薇館』。

#
その館を舞台にして、血も凍るような恐ろしい事件が起ころうとしていた――。

主人公
「……。」

主人公
「……ううん……？」

主人公
「あれ……ここ、どこ……？」

#
見覚えのない部屋だ。
私の家ではないことだけはわかる。

#
ベッドから起き上がろうとして、ガチャという金属の音と手首の違和感に気付いた。

主人公
「え……な、なに、これ……」

#
ベッドの柱に手錠がはめられており、そのもう片方が自分の手首に繋がれていた。

？？？
「あ、目が覚めた？」

【曽根崎の立ち絵】

主人公
「あなたは……曽根崎くん？」

#
――曽根崎狂司。

#
同じ大学の同級生だが、私はあまり面識がない。
会話をした記憶も数えるほどだ。

曽根崎
「まったく状況がわからないって顔だね。
どこから説明したらいいかな……」

曽根崎
「ここは僕の実家だよ。
君を招待したんだ」

主人公
「招待？　誘われた覚えがないんだけど……」

#
そもそもそんなに仲がいいわけでもないのに、いきなり実家に招待されるなんて、あるんだろうか。

主人公
「この手錠は何……？」

曽根崎
「夏休みの間、ずぅ〜っと君と一緒にいたいから」

#
説明になっていない。
コイツがヤバそうということ以外は。